

秋のお彼岸・御会式

咲かそ
いのち



日蓮大聖人が南無妙法蓮華經とお唱えになられ、お題目を世の中に弘められていく中、鎌倉幕府や出身地の権力者によって多くの迫害が加えられました。住居を焼かれたり、ご布教の最中に突然武装した者たちに襲われたこともありました。日蓮大聖人だけではなく、大聖人を守るために命を落とされた方もいます。弾圧は信者にもおよび、教団の絆がちりぢりになってしまったのです。しかし、日蓮大聖人を傷つけようとする人がいても、それ以上の思いをもって支えようとする方々が絶えることはありませんでした。

日蓮大聖人がお生まれになった時代は武士の世の中でした。やがて、戦国時代と呼ばれる多くの血が流される内戦の時代が訪れ、最後に徳川家康によって天下統一がなされます。四百年近い封建時代の中で太平の世が訪れますが、西欧列強の近代兵器により、武士の支配は終わります。

西欧に憧れながら、日本の魂を失わないようにした時代が訪れ、外の国との戦いに一喜一憂したり、大不況の最中、時の首相を殺害するテロも起こりました。昭和という時代には日本を一面の焼け野原にしてしまう戦争が起こり、そこから今の私たちの時代が産まれてきました。

多くのことが起こりましたが、よくよく目をこらせば一人の人間が生きては死んだというこのことの繰り返しです。何百億という人の命の流転、その繰り返しが私たちの目の前に広がっています。

建長五年（一二五三）、日蓮大聖人によって初めて南無妙法蓮華經とお題目が唱えられました。それからお題目が唱えられなかった日はありません。この世界のどこかで誰かがずっとお題目を唱えてきたのです。約二十八万日の間、いろいろな立場の人がいろいろな思いをこめて、唱題行は続いてきたのです。

さあ、私もあなたも、お題目を唱え続けましょう。

